

海外安全対策情報（令和2年度第1四半期）

1 社会・治安情勢

ボツワナ政府は6月末に初のCOVID-19感染者が出たことを受け、4月3日から6か月間の非常事態宣言をし、また、同日から5月20日までロックダウン措置を執った。6月末時点で感染者数は300名弱（そのほとんどが南アフリカからのトラック運転手）と感染は拡大していない。物流を除いては国境は閉鎖、航空便も全て運休という状況となっており、ボツワナの第2の収入源である観光業は壊滅的な打撃を受けて、ボツワナ経済はしばらくの間停滞するものと考えられる。COVID-19流行前の調査でも、既に失業率は22.2%に拡大しており、15歳から35歳の失業率に限って言えば28.8%に拡大していたことがわかっており、政府が様々な救済措置を執っているものの、COVID-19がさらにこの状況に追い打ちをかけられると思われる。失業率の拡大は社会不安となり、政権への不満となる。また、犯罪も増加する可能性があり、今後治安の悪化が懸念される。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 正確な統計、犯罪の傾向等は発表されていない。ロックダウン措置の影響で、人の外出が減り、犯罪件数自体は減っていると考えられるが、引き続き注意が必要である。

(2) 邦人被害事案

邦人の被害は確認されていない。

(3) 邦人以外の被害事案

外国人の被害は確認されていない。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件に相当する事案は確認されていない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人、外国人の被害は確認されていない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情は引き続き良好で、大きな変化はなく、日本企業が犯罪の標的とされる可能性は低いと考えられる。